

# 創価大学

[ SOKA UNIVERSITY ]

多彩な  
“人とのつながり”のなかで  
学び、成長できる  
きめ細やかな学びサポート



広大な八王子キャンパスでは文理にまたがる8学部の学生が学ぶ

近年は、スーパーグローバル大学としての高い評価や教育・研究両面におよぶSDGs活動などで注目されている創価大学。しかし、同大学の魅力はそれだけではない。教員と学生をつながり、先輩と後輩をつながりなど、“人とのつながり”によって一人ひとりの学生の成長を支援する仕組み・環境も大きな特色の一つだ。西浦昭雄副学長にそのポイントを聞いた。

取材・文／伊藤敬太郎 イラスト／ミヤザキコウヘイ

## 教職員が一人ひとりの学生を見守り、主体的な学びを支援

### 初年次セミナーによって 大学生生活のリズムを会得

創価大学は、東京都八王子にキャンパスを置き、経済学部、経営学部、法学部、文学部、教育学部、国際教養学部、理工学部、看護学部の8学部を擁する総合大学だ。同大学は、文部科学

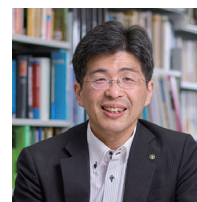
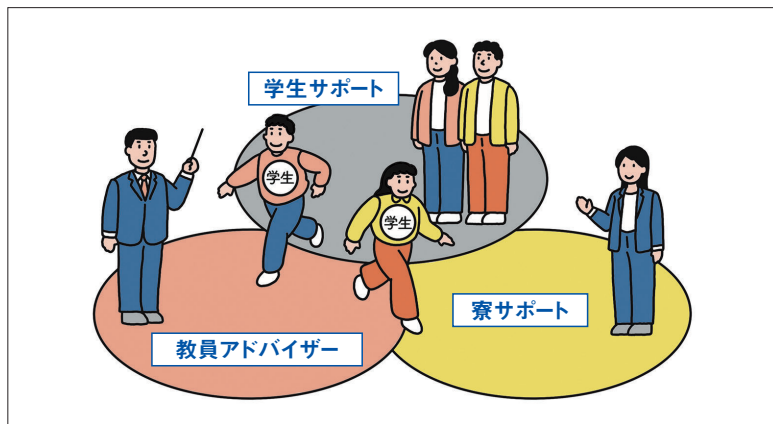
省「スーパーグローバル大学創成支援事業」において2018年、2021年の2回連続で最高評価「S」を獲得するなど、留学支援や語学教育をはじめとするグローバル教育で高い評価を受けているほか、SDGs達成のための教育・研究に力を入れていることでも知られている。

そんな創価大学のもう一つの大きな特色が、“人とのつながり”を軸として学生の主体的な学びや成長を支援する教育環境だ。

近年、多くの大学で、学生の孤立化やそれともなう学びへのモチベーション低下が問題となっている。コロナ禍を経て問題はより拡大・深刻化した。これに対して、創価大学では以前から、学生を放置せず、学生が人との関わりのなかで、学びへの意欲を高め、成長していくことができる環境づくりに力を入れてきた。そして、この動きはここ数年さらに強化されているという。

西浦昭雄副学長は創価大学独自

図1 初年次から教職員、先輩たちが多面的に学生を支える



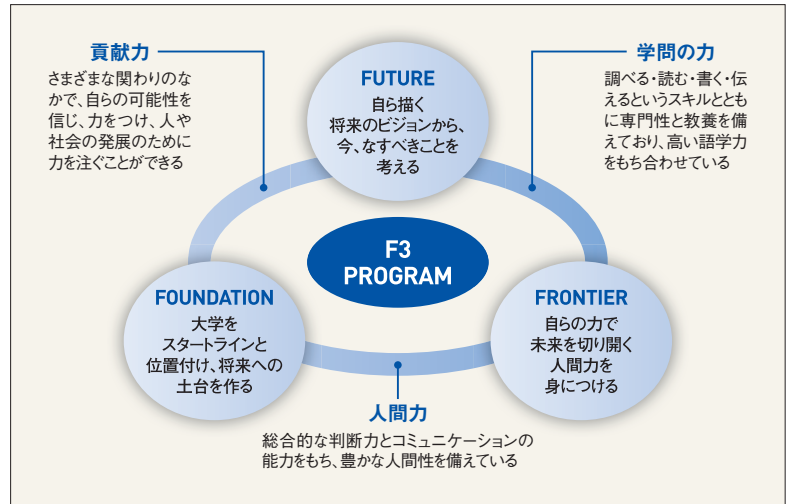
経済学部教授  
西浦昭雄副学長

の教育環境・教育体制について次のよう語る。

「本学は、開学以来“学生中心の大学”を掲げ、それを前提に、“価値創造を実践する世界市民の育成”を教育理念としてきました。これを実現するため、学部の区分を超えた共通教育では、①自立した学習者となること、②他者と協働する力の育成、③適切に表現・発信する力の育成の3つを柱としています」

これらを達成するための支援の一つが、教職員からのきめの細かい働きかけだ。2018年度から共通科目化した初年次セミナーは、入学後の半年間、大学で学ぶために必要なマインドや態度、基礎スキルについて、10人程度の少人数クラスを編成して、担当の教員（「教員アドバイザー」と呼ばれる）が一人ひとりの顔を見ながら指導する。「高校生から大学生になっていく最初

図2 初年度から学生の成長を支えるF3プログラム



の半年間というのは大切な期間です。初年次セミナーでは、この期間を教員アドバイザーが伴走しながら、学生が大学生生活のリズムにスムーズに慣れてい

けるようきめ細かく指導します。さらに、それぞれの学生の4年間の学びの計画や自分の目標に合った履修科目の選び方などを一緒に考えていきます」

## 1年次から始まるキャリア教育が4年間の学びを方向づける

### キャリア教育の指針となる F3プログラム

卒業までの学びの計画を立てるためには、同じく共通科目として1年次からスタートするキャリア教育も重要な意味をもっている。その基本となるのが「自分の未来を (Self-Future) / 自らの力で切り拓く力をつけ (Self-Frontier) / 自身の基盤を築く (Self-Foundation) 」F3プログラム (図2) だ。

仮に大学で何を学びたいかが曖昧な状態で入学した学生でも、初年次セミナーやキャリア教育科目を通して、自分の目標についてじっくりと考え、学びを積み重ねながら、その解像度を上げていくことができる。

なお、教員アドバイザーは、初年次セミナーの期間後も学生の相談相手であり続ける。担当する学生の成績や授業への出欠状況などもチェックし、適宜サポート。3年次にゼミが始まると、ゼミの担当教員に引き継ぐというシステムだ。このほか、寮で生活する学生を対象に、成績不振者の減少、心身の課題の早期発見や適切な対

応を目的に教職員が定期的にサポートする寮アドバイザー制度もあり、教職員が多面的に学生を見守り、支える体制が整っている。

### 語学教育はレベル別・目的別にクラス分け

このように学ぶマインド・態度を醸成すると同時に、個別・具体的な「社会で役立つ力」の養成を目指す共通科目も充実している。例えば、③適切に表現・発信する力に直接つながるのが「学術文章作法」や語学教育だろう。

「本学の語学教育はレベル別にきめ細かくクラスを設けているのが特色です。また、留学、TOEICなど目的別のクラスも設けています」

また、他者と協働して主体的に学ぶ力の醸成につながるのが、「ボランティア入門」や、地域・企業と連携したPBL科目。このほか、最新の社会的ニーズを反映した「データサイエンス入門」を2021年度からスタートしている。



学生同士がグループワークやイベントなどを通して交流を深めるラーニングコモンズ「SPACE(スペース)」。施設内のWLCセルフアクセスセンターでは世界各国から集まる留学生とも交流できる

# 先輩から後輩へのピアサポートも仕組み化されている

## 就職が決まった先輩が 後輩のキャリア設計を支援

学生同士のつながりや支え合いによるピアサポートが仕組み化されているのも創価大学の大きな特色だ。象徴的なのが、CSSと呼ばれる、就職が決まった先輩による後輩への支援。1年次秋学期に開講される「キャリアデザイン基礎」では、CSSがキャリア面談や授業内でのサポートを行う。このほか、就活生のサポートを行うRSS（ほかに公務員に特化したPSS、教員に特化したKSSも）、授業内のアシスタントを務めるSA、寮生活を支えるレジデンスアシスタントなども充実。また、ラーニングcommonsであるSPACeでは、世界各国からの留学生と交流できるコーナーやイベントなども設けられている。

このような学生同士のつながりは、大

学での学び・生活に不安や戸惑いがある下級生にとっては、モチベーションを高め、成長を後押しする効果がある。「一人ではない」と実感できる環境なのだ。「CSSやRSSは毎年希望者が手を挙げて就任します。自身が先輩に支えてもらった経

験を大切に受け止め、今度は自分が後輩に対して「恩送り」をしていきたいという学生の声をよく耳にします」

なお、CSS、RSSなどのピアサポーターを養成するための課外研修や正課科目も充実。「人を育てる人」を育成する体制も整っている。

図3 創価大学生の成長イメージ



このように、教職員や先輩たちが学生を支える環境では、学生の孤立化やモチベーション低下は起こりにくい。創価大学は長年にわたって積み重ねられてきた伝統と新しい取り組みの組み合わせによって、「学生主体の学び」を実現する環境づくりに成功しているといえる。

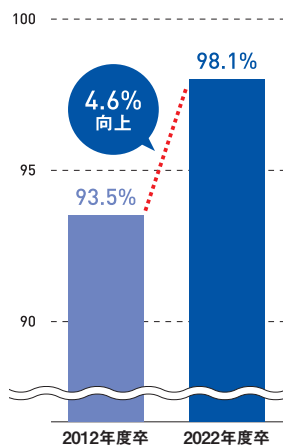
## COLUMN

# 2022年度の就職率は98.1%。難関資格合格者も例年多数輩出

## 教員採用試験は累計で 約7900人が合格

創価大学の、人とのつながりを大切にしたい学生中心の教育は、就職や資格取得といった「結果」にもしっかりと結びついている。2022年度の卒業生に関しては、就職率98.1%を達成した。キャリアセンターによる支援の強化もあり、2012年度の93.5%から4.6ポイントの向上。国内外の有名企業にも多数の卒業生を送り出している。また、代表的な国家資格の累積合格者数は右の表の通り。司法試験、公認会計士、税理士、看護師の合格者はすべて3桁台。地方公務員採用試験は1900人以上、教員採用試験には約7900人が合格。それぞれの合格者が社会の各分野で幅広く活躍している。

## 就職率の変遷



## 累計資格試験合格者数

司法試験合格者数 (2023年11月現在)	448名
公認会計士試験合格者数 (2023年3月現在)	261名
税理士試験合格者数 (2023年3月現在)	242名
国家公務員総合職試験合格者 (2023年3月現在)	61名
外務省専門職員採用試験 (2023年10月現在)	70名
その他の国家公務員試験 (2022年3月現在)	200名以上
地方公務員試験 (2022年3月現在)	1,900名以上
教員採用試験合格者数 (2022年1月現在)	約7,900名
社会福祉士国家試験 (2022年3月現在)	88名
看護師国家試験 (2022年3月現在)	463名